



PEACEBOAT  おりづるプロジェクト

ヒバクシャ地球一周 証言の航海

Global Voyage for a Nuclear-Free World
PeaceBoat Hibakusha Project

ピースボート

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場 3-13-1-B1

TEL03-3363-7561 FAX03-3363-7562

2017年7月25日

第10回「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」

プロジェクトの概要とその成果

- クルーズ 第94回ピースボート「地球一周の船旅」
- テーマ 「市民の力で核兵器を禁止する一過ちをくり返さないために」
- 期間 2017年4月12日(水)～2017年7月25日(火) 横浜発着 計105日間
- 寄港地数 23カ国 24寄港地
- 使用客船 オーシャンドリーム号
- 参加者
 - 被爆者 3名(内訳: 広島被爆2名/長崎被爆1名) ※参加被爆者は「非核特使」に委嘱
広島被爆: 田中 稔子、土田 和美 長崎被爆: 三瀬 清一郎
 - 被爆二世 2名 山村 法恵(広島)、砂原 由起子(広島)
※参加被爆二世は「非核特使」に委嘱
 - ユース特使 2名 鈴木 慧南(神奈川出身)、遠藤 愛弓(神奈川出身)
※参加ユースは「ユース非核特使」に委嘱
- 証言活動 18カ国 21都市にて実施
- 後援 広島市/長崎市/平和首長会議/日本原水爆被害者団体協議会
公益財団法人広島平和文化センター/公益財団法人長崎平和推進協会
- プロジェクト通称 おりづるプロジェクト
- 主な活動と成果
 - ①核兵器禁止条約への賛同と交渉参加を各国に求め、条約成立への機運を高めた。
 - ・ギリシャ、イタリア、スペイン、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー、アイスランドなどで政府高官や地方議会等に核兵器禁止条約への賛同を要請。
 - ・ニューヨーク国連本部での核兵器禁止条約交渉会議に代表団を派遣。
 - ・エルサルバドルのサンミゲル市が平和首長会議に加盟を表明。
 - ・ヒバクシャ国際署名を計1,765筆集める。
 - ②世界のさまざまな戦争被害者や核被害者との連帯活動を展開した。
 - ・ロシアでチェルノブイリの被ばく者、ハワイではマーシャル諸島の核実験被害者、船内ではイランの化学兵器被害者らと交流。国連本部ではオーストラリアやタヒチの核実験被害者らと共に活動。
 - ・中国、韓国、マレーシア、シンガポールなどアジアからの多数の乗船者と交流。
 - ・乗船していたカラカス市民オーケストラのメンバーと交流。
 - ③被爆二世、ユース特使、ピースガイドなど、次世代の活動の可能性を広げた。
 - ・被爆二世が世界各地で証言。被爆二世が被爆者である親から聞いた話や、伝承者要請で学んだことを通して、被爆の実相を伝えることができることを実証した。
 - ・ユース特使と被爆者が協力し詩や演劇など多様な表現での継承活動に取り組んだ。
 - ・被爆体験の継承と核なき世界に向けて活動する「おりづるピースガイド」の養成講座を初めて実施、8名が修了。今後、原爆や平和に関する活動に取り組む。

■参加被爆者 略歴



三瀬 清一郎(ミセ・セイイチロウ)

長崎被爆 1935年2月26日生まれ 被爆当時10歳

長崎県長崎市在住

爆心地より3.6km地点にある自宅にて、オルガンを弾いて遊んでいるときに被爆。とっさに目と耳を両手でふさぎ、うつ伏せになったところで強烈な爆風に襲われる。幸運にも家族全員無事だった。自身の被爆体験にとどまらず、戦争中の日本の様子や、原爆が投下されてからの被爆者の生き方なども含めて、主に修学旅行生を対象に数多くの証言をし、「平和の尊さ」を強く訴えている。長崎平和推進協会継承部会に所属し、体験談の活字化、機関紙への投稿等も行っている。



田中 稔子(タナカ・トシコ)

広島被爆 1938年10月18日生まれ 被爆当時6歳

広島県広島市在住

国民学校に登校中2.3km地点で被爆。思わず顔を右腕で覆ったため、頭、右腕、首の左後ろ側を火傷した。その日の夜から高熱を出し、意識不明となるが、なんとか助かった。ニューヨークのプロジェクト「ヒバクシャ・ストーリーズ」に招かれるなど、7年間で10回以上渡米し、アメリカのさまざまな人に被爆証言をしてきた。核兵器禁止条約が被爆者が生存しているうちに成立するよう、精力的に活動している。



土田 和美(ツチダ・カズミ)

広島被爆 1940年8月9日生まれ 被爆当時4歳

埼玉県草加市在住

妹のために友達と牛乳を取りにいく帰り道、爆心地から3kmの地点で被爆。爆風で吹き飛ばされたが、目に見える怪我はなく、ただただ驚いて言葉が出なかった。2012年9月、ピースボート被爆者派遣団として非核特使の委嘱を受け、緊張の高まる中東イスラエルで核廃絶と平和を訴えた。また日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)の要請で、ワシントンD.C.にて証言を行うなど、幅広い人たちに向け証言活動を行なっている。現在は「平和ネット草加」に所属し活動している。

■被爆二世



山村 法恵(ヤマムラ・ノリエ)

広島被爆二世 1950年8月30日生まれ

広島県安芸高田市在住 広島市被爆体験伝承者一期生

国鉄に勤務していた父(当時30歳)が職場の命を受け、原爆投下6時間後に広島へ向かい入市被爆した。また母(当時12歳)は小中学校にて被爆者の手当をして、救護被爆した。広島市の被爆体験伝承者養成事業に参加し、2015年に「被爆体験伝承者」の一期生として認定された。近年の広島長崎の記憶の風化に危機感を抱いている。記憶を忘れさせる。



砂原 由起子(スナハラ・ユキコ)

広島被爆二世 1956年11月15日生まれ

広島県広島市在住 広島市被爆体験伝承者候補者三期生(2017年認定予定)

学徒動員として郵便局で勤務していた母(当時15歳)は、爆心地から2km地点の宇品の郵便局で被爆した。また父(当時16歳)は京都の大学生で軍服工場で働いていたが、原爆投下の知らせを受け広島駅付近の自宅へ向かい入市被爆した。広島市の被爆体験伝承者養成事業に三期生として参加している。核兵器禁止条約へ向けて、どうしたら若い人に関心をもってもらえるかが課題だと感じている。

■ユース特使



鈴木 慧南(スズキ・ケイナ)

神奈川出身、神奈川県横浜市在住 現在24歳 (ピースボート インターン)

2015年に行われた「第8回 ヒバクシャ地球一周 証言の航海」にユースとして参加。その後、長崎に9ヶ月間住み込み、被爆者の方の講話のお手伝いやN-DOVEの活動に参加。横浜に帰ってきたのち大学を休学し、ピースボートでインターンを行う。2016年12月には長崎で行われた外務省主催のユース非核特使フォーラムで今までの活動の成果を報告した。核兵器禁止条約締結へむけての機運が高まっている中、もう一度「広島・長崎の声」を届けたいと思い、今回の参加を決意。



遠藤 愛弓(エンドウ・アユミ)

神奈川出身、神奈川県横浜市在住 現在22歳

大学で核や原爆、平和などについて考えるサークル『Peace☆Ring』に所属し、毎年夏は広島長崎のスタディツアーに参加。そこで得たものや感じたことをそのままにするのではなく、大学内にてアウトプットの場作りをするなど、日々「伝える」活動をしている。現在、国際協調ではなく自国中心的な考え方や、戦争を知らない世代を中心として戦争や核の保有に肯定的な人が増えていることに危機感を抱いており、被爆者とともに戦争や核兵器の恐ろしさを伝えていきたい。

● 寄港地での活動

4月21日 シンガポール

活動都市:シンガポール

発言者:田中稔子さん(学生への証言会／約200名)、発言者:土田和美さん(大学院での証言会／約15名)、発言者:三瀬清一郎さん、鈴木慧南さん(高校生への証言／約50名)

2つのグループに分かれて行動した。一方はユナイテッドワールドカレッジにて、学生200名に対して証言会を行った。質疑応答時、「原爆を落とした米国を憎んでいるか」「米国人捕虜も犠牲になったことを知っているのか」などといった質問が印象的だった。もう一方のグループはリークワンユー公共政策大学院にて証言会を行い、原発についての問題や9条改憲問題についての質問が出た。グループが合流後、ラッフルズ学院にて高校生に向けて証言会を行い、戦争の恐ろしさを伝えた。



4月27日 コロンボ(スリランカ)

活動都市:コロンボ

発言者:三瀬清一郎さん、鈴木慧南さん、砂原由起子さん、遠藤愛弓さん(証言会／20名)

国家の統合と和解事務所へ訪問し、コロンボの内戦から復興に向けての働きについて知ることができた。スリランカユナイツにて、若者たちに向けて証言をするとともに、戦争を二度と起こさせない為に継承をしていく大切さについて伝えた。また、ユース特使の遠藤さんより、同年代の若者が活動していく重要性について話をした。また、軍事費に対する世界アクション・デー(GDAMS)のフォトアクションも行った。

5月10日 ピレウス(ギリシャ)

活動都市:ピレウス

発言者:田中稔子さん・遠藤愛弓さん(シンポジウム／約30名)

代表2名が、国連「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成目標14「海の豊かさを守ろう」と「地中海行動計画」をテーマにしたシンポジウムに参加。田中さんが被爆体験を元にスピーチを行い、現地の市長や小学生に向けて、核問題が海洋汚染にどのように影響するのか、また放射能が人体へどのように影響を与えていくのかを伝えた。見学に来ていた小学生からは、「今でも身体の不調などはあるのか」などの質問が挙がった。ユースの遠藤さんは持続可能な社会を目指すために、核からの脱却が必要であるとスピーチした。

5月13日 カリアリ(イタリア)

活動都市:カリアリ

発言者:山村法恵さん・遠藤愛弓さん(高校生に向けての証言会／約200名)、三瀬清一郎さん(政府関係者との会合／約30名)、土田和美さん・鈴木慧南さん(一般市民向け証言会／約200名)

高校生に向けて、原爆の簡単な基礎知識を遠藤さんがレクチャーした後、山村さんがご両親の被爆体験について話した。質疑応答では、9条改憲問題や北朝鮮の核の脅威などについて質問を受けた。サルディーニャ島の上院議員や州政府関係者の方々との会合を行い、イタリアも核兵器禁止条約の交渉会議に参加して欲しいという旨を伝えた。上院議員の方々からは、「政府にも声を届けるように努力する」という一言をいただく。一般市民向けの証言会では200名以上の方々の前で証言をすることができた。

5月15日 バレンシア(スペイン)

活動都市: バレンシア

発言者: 田中稔子さん(州議会表敬訪問／8名)、三瀬清一郎さん(市役所訪問／約30名)、土田和美さん、田中稔子さん(バレンシア大学での会合／約120名)

被爆者らの寄港に合わせ、バレンシア州議会は5月11日、核兵器禁止条約の交渉に賛同する決議案を全会一致で可決した。当日はその Enric Morera 州議会議長を表敬訪問し、その場でヒバクシャ国際署名への賛同をいただいた。次にバレンシア市役所を訪問し Joan Ribó 市長より、市からスペイン中央政府に向けて、核兵器禁止条約への参加を訴えるとの話をいただき、ヒバクシャ国際署名の署名式を行った。その後バレンシア大学に行き、土田さんが被爆証言を伝え、その後核兵器の恐ろしさについて議論した。

5月18日 ポルト(ポルトガル)

活動都市: ポルト

発言者: 三瀬清一郎さん、土田和美さん(ポルト大学での証言会／約60名)

代表者2名がポルト大学を訪問し、学生や研究者に向け、三瀬さんが自身の被爆経験や家族のこと、そして平和について、証言を行った。そして土田さんが核兵器禁止条約への賛同を求めるスピーチをした。また、参加していた核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)フランスの方より、世界の核兵器の動きについての講義が行われた。メディアの取材も多数あり、ポルトのTVでも大々的に放送された。

5月21日 ル・アーブル(フランス)

活動都市: ル・アーブル

発言者: 田中稔子さん、鈴木慧南さん(証言会／約50名)

原発問題に関心のある一般参加者とともに、パリュエル原発とパンリ原発の見学を行った。パリュエル原発の近くに住む原発反対の市民の方々と、ツアーに参加した一般参加者に向け、田中さんが被爆証言をし、ユースの鈴木さんより日本の原発の導入について話をした。フランスの原発の現状や、原発周辺地域に住む市民の意識について知ることができた。

5月23日 ルーアン(フランス)

活動都市: ルーアン

発言者: 砂原由起子さん、鈴木慧南さん(船内での証言会／約40名)

船内にICANフランスの若者や平和首長会議の方を招き、砂原さんがご両親の被爆体験についての講話を行う。その後、鈴木さんが“なぜこのプロジェクトに関わっているのか”“なぜ、継承活動をしているのか”などのスピーチを行った。平和首長会議フランス支部の Cibot 代表もお越しになり、フランスの平和首長会議の現状などについて話があった。また、質疑応答の時には、日本の原発の問題や9条改憲問題について質問が挙がった。

5月26日 コペンハーゲン(デンマーク)

活動都市: コペンハーゲン

発言者: 土田和美さん、山村法恵さん(証言会／約50名)

代表者2名が平和団体に向けて、証言を行った。涙ながらに聞いていた会場の人々からは大きな拍手があった。その後受け入れ団体の代表で、ご両親がイラクとシリア出身で難民だった Jasmin さんよりスピーチがあり、「国籍・人種に限らず、核兵器は絶対に使用してはいけない。また、未来は若者が作っていくものです。」と話があった。このほか、「市民レベルでどのような活動をしていくべきなのか」「戦争を知らない世代にどのように伝えていくべきなのか」、といった質問があがるなど、有意義な意見交換の場となった。

5月30日 サンクトペテルブルグ(ロシア)

活動都市: サンクトペテルブルグ

発言者: 田中稔子さん、鈴木慧南さん(意見交換会／5名)

チェルノブイリ原発事故の医療従事をしたことで被曝した生存者の方と出会い、当時の原発事故後の後処理や政府の保障に関して話を聞いた。その後、サカロヴァ公園にある長崎の鐘や、チェルノブイリの記念碑の場所を訪れる。証言会会場では、田中さんの「自分が被爆しているから、子どもに申し訳ない気持ちがある」という発言に対して、「あなたは何も悪いことをしていないのだからそんな風に思わなくていい」と優しく力強い言葉がかけられた。お互いに原発の事情や被害についての意見交換をする事ができた。



5月31日 ヘルシンキ(フィンランド)

活動都市: ヘルシンキ

発言者: 土田和美さん(大使との面会／1名)、三瀬清一郎さん(市議会議員の方へ証言／3名)、砂原由起子さん(現地NGOへ向け証言／17名)

外務省にて核兵器問題を担当している Jarmo Viinanen 大使と面会し、大使からは日本とフィンランドの核兵器への対応は似ているという話があった。軍縮を求めているものの、近隣国からの核の脅威の関係で、簡単に核兵器禁止条約には賛成できないとのことだった。次に国会を訪れ、市議会議員の方と面会。「軍拡ではなく友好を築くべきである」という話があり、ヒバクシャ国際署名にも賛同していただいた。その後、NGO団体に向けて証言会を行い、意見交換を行った際には原爆被害についてなどの話があった。

6月2日 スtockホルム(スウェーデン)

活動都市: スtockホルム

発言者: 山村法恵さん、遠藤愛弓さん(高校での証言会／約150名)、田中稔子さん(軍縮大使との面会／1名)

現地高校生に向けて証言会を行う。質疑応答では「米国に対して何を思っているのか」「被爆二世への放射能影響をどのように感じているのか」など質問があがった。次に Eva Walder 軍縮大使との面会を行う。原爆のもたらした被害を話し、周りの国々が核兵器禁止条約に賛同することが、日本へ良い影響を与えることにつながる、と訴えた。大使からは、核兵器禁止条約の必要性や現在出ている草案のことなどを踏まえて、前向きに積極的に締結へ向けて国として動いている旨のお話があった。

6月2日～5日 オスロ(ノルウェー)

活動都市: オスロ ※スウェーデンから船を一時離脱

代表団: 三瀬清一郎さん(外務次官との面会、平和活動家へ向け証言会／10名)

初日は外務省にて、Marit Berger Røslund 外務事務次官と面会。短い時間の中、被爆証言とともに核兵器禁止条約の交渉会議に参加するよう訴える。外務次官は国や個人として核兵器禁止条約の必要性について真剣に耳を傾けてくれる一方で、現在のNPT体制において賛同できないとのこと。面会した三瀬さんとしては「伝えたい想いは伝え、平和への道のりが違うことは残念だが、核兵器禁止条約の必要性を理解していることが分かった。」と言っていた。

3日目はオスロの平和活動に携わる方々の前で被爆証言を行う。参加者の一人は夫を戦争で亡くすなど、戦争時の苦労は国境を超え共感するところが多くあった。

6月5日 ベルゲン(ノルウェー)

活動都市:ベルゲン

発言者:砂原由起子さん、鈴木慧南さん、三瀬清一郎さん(一般市民向け証言会／約300名)

ICANノルウェー受け入れのもと、一般市民向けに証言会を行った。そこでベルゲン市のユース議会の市長のスピーチがあり、ジョンレノンのイマジン歌詞を引用して平和を想像することの大切さを伝えていた。高校生という若さでありながら平和な社会づくりに貢献していることが、ユース特使にとっても良い刺激となった。証言後は9歳の少女から出た「病院は無かったのか」という質問に、参加者たちは優しく返答をした。



6月9日 レイキャビク(アイスランド)

活動都市:レイキャビク

発言者:三瀬清一郎さん、山村法恵さん、鈴木慧南さん(一般市民向け証言会／約70名)

過去に米国とソ連との会談が行われ、「すべての種類の核兵器を禁止する」と提案まで至った歴史的な建物、ホフディハウスの見学を行い参加者は感慨深い様子だった。その後は市役所へ行き、証言会を行った。市議会議員の方より、生の被爆証言を直接聞ける機会はとても貴重で、また重要であるとの話をいただき、在アイスランド日本国大使館の北川靖彦大使より、被爆者の証言を聞くことによって知識と理解が深まり、核廃絶への道が開かれるといった旨のご挨拶をいただく。

6月17日～20日 ニューヨーク(米国)

活動都市:ニューヨーク ※バミューダ諸島から船を一時離脱(代表団:三瀬さん、田中さん、砂原さん)

発言者:三瀬清一郎さん、田中稔子さん、砂原由起子さん(オーストリア領事館へご招待／20名、アンプリファイの若者に向け証言／16名、国連フォーラム勉強会／約50名、国連軍縮大使との面会／1名)、三瀬清一郎さん、田中稔子さん(3日目の国連サイドイベント／約70名)、三瀬清一郎さん、砂原由起子さん(4日目の国連サイドイベント)

初日はオーストリア領事館へご招待を受け、オーストリアの軍縮大使から核兵器禁止条約の交渉会議を経て、自国の考えや国ごとの交渉内容や条約に対しての考えの違いについて話を聞きつつ、意見交換。

2日目は、オランダの平和団体PAX主催のアンプリファイという13カ国16名の若者へ向け証言・意見交換会を行う。午後はコロンビア大学にて、ニューヨーク在住の日本の方に向け証言・交流会を行う。

3日目は国連本部へ赴き、ピースポートとマーシャル諸島共和国国連代表部の共催によるサイドイベントに参加。マーシャル諸島の大使やオーストラリアの核実験被害者二世の方、タヒチの核実験被害者の方とともに、体験を踏まえて発言をした。その後、日本のNGOや被爆者団体が中満泉国連事務次長と面会。

4日目は核兵器禁止条約の交渉会議傍聴後、国連で行われたサイドイベントに参加。三瀬さんが被爆者としての意見を発言した。



6月22日 ラグアイラ(ベネズエラ)

活動都市:ラグアイラ

発言者:山村法恵さん(船内証言会／約500名)、田中稔子さん(ピースセレモニー／500名以上)

船内にて現地青年局の若者やボランティアの大学生、受け入れてくれた外務省の方々など総勢約500名に向けて証言会を行う。山村さんが証言を熱心に語り、ヒバクシャ国際署名にも多数の賛同をいただく。夜はピースセレモニーがあり、そこでは船旅を共にしてきたカラカス市民オーケストラの演奏を聴くとともに、田中さんが核のない平和な世界を作っていくことについて力強くスピーチを行った。

6月28日 コリント(ニカラグア)

活動都市:コリント

発言者:三瀬清一朗さん、鈴木慧南さん(政府関係者や若者に向けて証言会／約120名)

伝統的な歌やダンスでの熱烈な歓迎を受けた他、メディアからも多数の取材を受け、注目度が高いことが伺えた。市長や環境省の方々より、平和に関して被爆者への敬意を込めたお話をいただく。100名を超える方々に三瀬さんが被爆証言を行い、また鈴木さんが自身と同じくらいの年齢の若者たちに、ヒバクシャ国際署名の意義と賛同の呼びかけを行ない、半数以上がサインしてくれた。

6月29日～30日 アカフトラ(エルサルバドル)

活動都市:サンミゲル、エルモソテ

発言者:砂原由起子さん、遠藤愛弓さん(高校での証言会／約350名)、サンミゲル市長との面会、エルモソテにて内戦の生存者の証言を聞き取り

初日は現地の高校を訪問。多数の高校生たちが受け入れてくれた。彼らはエルサルバドルの歴史や日本の広島・長崎のことをよく調べて発表をしてくれた。砂原さんが自身の両親の被爆体験をお話したあとは、遠藤さんがエルサルバドルの内戦のことや船旅を通して感じた想いなどを語った。

2日目はサンミゲルの市庁舎を訪問し、若手の Pereira 市長と面会。平和首長会議への加盟とともに、ヒバクシャ国際署名も賛同していただいた。その後は内戦時、一般市民が大虐殺をされたエルモソテを訪れる。その生存者の方々と出会い、当時の証言とともに、被害や内戦事情について話を聞いた。

7月12日 ホノルル(ハワイ)

活動都市:ホノルル

発言者:土田和美さん(マーシャル諸島出身の方に向け証言会／約50名)

パールハーバービジターセンター、およびアリゾナ記念館を訪問。真珠湾攻撃についての米国側の受け止めを学ぶ。その後はマーシャル諸島出身でハワイ在住の方々の集会に参加し、被爆証言を伝える。また、マーシャル諸島近海のビキニ沖で行われた水爆実験の被害者の方と被爆二世の方の証言を聞き、戦時中の原爆の被爆者と戦後の核実験の被爆者という立場同士で、政府間の補償の有無などに関して意見を交わすことができた。

【その他の寄港地】

プーケット(タイ)、リガ(ラトビア)、タリン(エストニア)、ハミルトン(バミューダ諸島)、クリストバル(パナマ)、プエルトケツアル(グアテマラ)

●ヒバクシャ国際署名

合計: 1, 765筆

【賛同して下さった主要な方々】

- ・ のはらヒロコさん(ゴスペルシンガー、シンガーソングライター)
- ・ チャン・タウ・チョウさん(アルジャジーラの英語チャンネルのレポーター)
- ・ パニサラ・スクンピシャイラットさん(性的マイノリティ権利擁護活動家)
- ・ Gian Piero Scanu さん(イタリア:サルデーニャ島上院議員)
- ・ Enric Morera さん(スペイン:バレンシア州議会議長)
- ・ Joan Ribó さん(スペイン:バレンシア市市長)
- ・ Erlend Horn さん(ノルウェー:ベルゲン市市議会議員)
- ・ Tora Kidegaug さん(ノルウェー:ベルゲン市ユース議会市長)
- ・ Miguel Pereira さん(エルサルバドル:サンミゲル市市長)



●国連平和ポスターの展示国

証言・交流プログラムを行った計18カ国のうち16カ国で実施



●福島ブックレット「福島 10 の教訓～原発災害から人びとを守るために～」の配布国

シンガポール、スリランカ、ギリシャ、ロシア、フランス、船内

合計: 英語約100冊／フランス語約50冊／スペイン語約30冊

●船内での活動

《主な交流相手》

■ カラカス市民オーケストラ

1979年ベネズエラの首都、カラカス市で生まれたカラカス市民管弦楽団。市民が親しむオーケストラを目指し、教育機関や社会福祉施設、広場や病院などで演奏活動を行っている。団員の90%が、ベネズエラの音楽教育システム「エル・システマ」出身。本航海には、20代を中心とした若き音楽家20名が乗船。

■ テヘラン平和博物館

テヘラン平和博物館は平和のための博物館国際ネットワークのメンバーであり、戦争がもたらす悲惨な状況についてたくさんの人に知ってもらうことで平和の文化を広げる活動を行う。本航海にはテヘラン平和博物館から5名が乗船。うち4名は化学兵器攻撃の生存者。

■ SDGsユース

平和教育と国連の持続可能な開発目標(SDGs)をテーマにしたプログラムに参加するため、若者ら計17名がパナマ～エルサルバドル間乗船した。国籍は米国、韓国、中国、スーダン、メキシコ、ポルトガル、ドミニカ共和国。

■ おりづるパートナー

おりづるプロジェクトに関心を持って、主体的に関わってくれる方々をおりづるパートナー(通称:おりパ)と呼称している。被爆者の方とともに、劇や合唱など、様々な企画等を通じてこの問題を知ってもらえるように、船内などで活動している。下船後も継続してその活動に携わる方もいる。

■ 水先案内人

チャン・タウ・チョウさん(アルジャジーラの英語チャンネルのレポーター、プロデューサー)

ニラン・アンケテルさん(スリランカ出身の弁護士。南アジア法学センターの共同創設者。)

エリス・ブルックスさん(イギリスのクエーカーの平和教育コーディネーター)

トム・健・ヤマモトさん(ハワイイ・沖縄連合会2016年度会長)

ほか

■ 多国籍な参加者

第94回ピースボート約1,000名の参加者のなかには、日本国籍の方以外にも、中国、韓国、台湾、シンガポール、マレーシアなど約80名の多国籍の参加者が乗船した。

《企画一覧》

1. 原爆の被爆の実相を伝え理解を深める

証言会:「ベネズエラ市民オーケストラのメンバーに向け証言会(クローズド)」(4/17)

証言会:「わたしと原爆。」(5/1)

証言会:「テヘラン平和博物館の方々と意見交換(クローズド)」(5/11)

証言会:「父と母が見た8月6日。」(5/12)

証言会:「せいちゃんの8月9日(英語セッション)」(5/17)

証言会:「被爆者から世界へ～被爆証言会～」(6/8)

証言会:「やまちゃんが聞いた「あの日」の話」(6/15)

発表会:「あの日きのこ雲の下で」(6/18)

証言会:「SDGsユースへ向け証言会(クローズド)」(6/27)

展示:「おりづる七夕展示会」(7/7)

証言会:「私が繋ぐ「あの日」」(7/11)

発表会:「おりづる劇～つないで、つむいで、未来へ～」(7/18)

発表会:「あなたが継承する第一歩～ピースガイド発表会～」(7/19)

発表会:「未来へツナグ物語～今、あなたに伝えたいこと～」(7/21)

2. プロジェクトの意義や成果を一般参加者と共有する

紹介企画：「はじめまして、おりづる。」(4/16)
交流会：「おりづるひろば～おりづるパートナー募集～」(4/16)
交流会：「おりパMTG」(4/19)
紹介企画：「おりづるユース徹底解剖！」(4/22)
交流会：「ぐーたん・ぬーぼー～三世代の恋模様～」(4/26)
交流会：「おりパMTG」(4/28)
報告会：「世界を巡るおりづる～アジア編～」(4/29)
交流会：「おりづる合唱団始動!!!!」(5/9)
紹介企画：「私が伝える理由～世界を巡って届けたい想い～」(5/9)
交流会：「みんなでうたおう～おりづる合唱団～①」(5/11)
交流会：「みんなでうたおう～おりづる合唱団～②」(5/14)
交流会：「おりづるMTG」(5/16)
交流会：「みんなでうたおう～おりづる合唱団～③」(5/17)
交流会：「みんなでうたおう～おりづる合唱団～④」(5/19)
交流会：「みんなでうたおう～おりづる合唱団～⑤」(5/20)
交流会：「みんなでうたおう～おりづる合唱団～⑥」(5/24)
交流会：「みんなでうたおう～おりづる合唱団～⑦」(5/27)
交流会：「みんなでうたおう～おりづる合唱団～⑧」(6/3)
交流会：「みんなでうたおう～おりづる合唱団～⑨」(6/4)
報告会：「世界を巡るおりづる～ヨーロッパ編①～」(5/25)
紹介企画：「平和なアジアを目指して～ピースポート活動紹介～」(6/4)
交流会：「おりづる合唱団⑩」(6/7)
交流会：「おりづる合唱団⑪」(6/8)
交流会：「おりづる合唱団⑫」(6/10)
交流会：「おりづる合唱団⑬」(6/11)
報告会：「世界を巡るおりづる～ヨーロッパ編②～」(6/12)
交流会：「おりづる合唱団⑭」(6/13)
交流会：「おりづる合唱団⑮」(6/14)
交流会：「おりづる合唱団⑯」(6/15)
交流会：「ベネズエラに千羽鶴を届けよう」(6/15)
交流会：「おりづる合唱団⑰」(6/16)
交流会：「おりづる合唱団⑱」(6/18)
イベント：「みんなのコンサート」(6/19)
交流会：「ぐーたん・ぬーぼー」(6/20)
報告会：「世界を巡るおりづる～番外編～」(6/24)
交流会：「おりづるピースガイド募集説明会」(6/27)
報告会：「世界を巡るおりづる～中南米編～」(7/3)
交流会：「おりづる劇団MTG①」(7/3)
交流会：「「母と暮らせば」から想う8月9日」(7/4)
交流会：「おりづる劇団MTG②」(7/5)
交流会：「おりづる劇団MTG③」(7/6)
交流会：「おりづる劇団MTG④」(7/10)
交流会：「おりづる劇団MTG⑤」(7/11)
交流会：「おりづる劇団MTG⑥」(7/14)
交流会：「おりづる劇団MTG⑦」(7/16)
報告会：「世界を巡るおりづる～Hawaii編～」(7/14)

3. 戦争や被爆体験の継承について理解を深める

上映会：「おりづる映像～ヒバクシャとボクの旅～」(4/29)
上映会：「長崎に原爆が落ちた日」(5/17)
ワークショップ：「あの日を語り継ぐ～被爆体験継承ワークショップ～」(5/19)
上映会：「I was her age.」(6/19)

4. 原発を含めた核に関する問題や平和の問題について理解を深める

- 対 談 : 「地球を巡り、世界を知ろう～核兵器って何?～」(4/17)
レクチャー: 「ヒロシマ、ナガサキ、ときどきトランプ」(4/18)
レクチャー: 「原爆を落とされた日本の未来」(4/19)
レクチャー: 「地球小学校～原爆を体感しよう!～」(4/30)
レクチャー: 「地球小学校～えっ!?本当!?戦争のできる国ニッポン!?!」(5/2)
レクチャー: 「やばいよ、やばいよ! 日本国憲法～記念日に考える憲法～」(5/3)
レクチャー: 「地球小学校～教えて! 日本は何で戦争をしたの?～」(6/3)
レクチャー: 「核兵器を無くす方法」(6/7)
対 談 : 「壁面アートで平和を語る」(6/16)
レクチャー: 「おりづるピースガイド①」(7/4)
レクチャー: 「おりづるピースガイド②」(7/4)
レクチャー: 「おりづるピースガイド③」(7/5)
レクチャー: 「おりづるピースガイド④」(7/6)
レクチャー: 「写真と川柳で「さるく」長崎の8月9日」(7/6)
レクチャー: 「おりづるピースガイド⑤」(7/7)
レクチャー: 「どうやって戦争は始まるの?」(7/7)
レクチャー: 「日本のニュース特別編～核兵器禁止条約は制定されたのか?!～」(7/8)
レクチャー: 「おりづるピースガイド⑥」(7/10)
レクチャー: 「おりづるピースガイド⑦」(7/11)
レクチャー: 「虐殺の歴史を超えて」(7/11)
レクチャー: 「おりづるピースガイド⑧」(7/14)
レクチャー: 「おりづるピースガイド⑨」(7/15)
レクチャー: 「おりづるピースガイド⑩」(7/16)

● 詳細

- ホームページ(日) <http://peaceboat.org/projects/hibakusha>
ホームページ(英) <http://peaceboat.org/english/?page=view&nr=83&type=28&menu=105>
ブログ(日) <http://ameblo.jp/hibakushaglobal/>
hibakusha国際署名 <http://hibakusha-appeal.net/index.html>

● メディア掲載情報(一例)

1) 2017年5月10日掲載(ギリシャ)



2) 2017年5月17日掲載(イタリア)



Sbarcati a Cagliari gli Hibakusha, i sopravvissuti giapponesi alla bomba atomica di Hiroshima e Nagasaki



13 maggio 2017 12:35 Stefania Lapenna

Un lunghissimo e commosso applauso e il suono delle launeddas stamane hanno dato il benvenuto nel sagrato della Basilica di Bonaria agli Hibakusha, i sopravvissuti giapponesi alla bomba atomica di Hiroshima e Nagasaki sbarcati poche ore fa al Molo Rinascita dalla Peace Boat, la Nave della Pace.

Tre hibakusha di prima generazione, che all'epoca dei fatti erano bambini, e due di ultima generazione, che ancora oggi subiscono gli effetti delle radiazioni.

3) 2017年5月15日掲載(スペイン)

COMUNIDAD VALENCIANA

Comunidad Valenciana (/cv/) / Valencia (/cv/valencia/)

Supervivientes de Hiroshima relatan en Valencia el terror de la bomba atómica

La delegación japonesa reclama la prohibición y eliminación de las armas nucleares cuando se cumplen 72 años de los primeros lanzamientos de la bomba atómica

EFE - Valencia

15/05/2017 - 17:36h



Uno de los portavoces de la delegación japonesa en Valencia EFE

Supervivientes de las bombas atómicas de Hiroshima y Nagasaki han narrado este lunes en Valencia cómo irrumpió en sus vidas el horror con estos bombardeos ocurridos hace casi 72 años, y han reclamado

4) 2017年5月18日掲載(ポルトガル)



Porto recebeu sobreviventes japoneses das bombas atômicas. “Fomos um teste. E odiamos isso.”

18 Maio 2017 131

<http://observador.pt/especiais/porto-recebeu-sobreviventes-japoneses-das-bombas-atomicas-fomos-um-teste-e-odiamos-isso/>



Sara Otto Coelho

A Peace Boat atracou no Porto com sobreviventes das bombas atômicas de Hiroshima e Nagasaki. Os dois japoneses recordaram o horror e apelam a Portugal para que, desta vez, vote pelo fim do nuclear.

Partilhe

Mise Seichiro estava na sua casa, em Nagasaki, a brincar e a imitar os sons que naqueles dias mais ouvia: o de bombardeiros b-29 americanos, que lançavam bombas sobre os japoneses. A mãe avisou-o para parar com aquilo, porque os vizinhos podiam assistir-se. Mal teve tempo porque, de seguida, uma luz intensa tomou conta do céu. Mise Seichiro tinha 10 anos e pôs em prática as lições que tinha aprendido na escola, em caso de bombardeamento: aninhou-se no chão, junto a uma parede, tapou os ouvidos com os polegares e, com os restantes dedos, tapou os olhos. Uns segundos depois, um estrondo tão forte que ele nunca poderia ter imitado, porque não conhecia, varreu a casa. Quando ganhou coragem, abriu os olhos e ouviu a mãe e a avó a gritar o nome dele e dos irmãos, por entre a poeira e os vidros partidos, outros pregados nas portas pela velocidade com que foram projetados pela energia da bomba. Foi no dia 9 de agosto de 1945, às 11h02 da manhã.

Mise Seichiro morava a 3,6 quilómetros do hipocentro. Três dias antes, a 6 de agosto, Tsuchida Kazumi já tinha passado pelo mesmo abalo, em Hiroshima, com uma distância mais perigosa do

5) 2017年6月1日掲載(ロシア)

Жертвы бомбардировок Хиросимы и Нагасаки призвали отказаться от эксплуатации плавучей АЭС в Санкт-Петербурге



Фото: greentpeace.org/ru

Окружающая среда. Права человека · 01.06.2017

Хибакус – жертвы бомбардировок Хиросимы и Нагасаки – встретились с ливидаторами катастрофы в Чернобыле и активистами экологических организаций.

Участники кругосветного морского тура на «Корабле мира», жертвы бомбардировок Хиросимы и Нагасаки, выступили против эксплуатации плавучей атомной электростанции (АЭС) «Академик Ломоносов» в Санкт-Петербурге, сообщает Гринпис России.

«Эксплуатация такой АЭС может привести к загрязнению морей, загрязнению рыбы, для меня это неприемлемо. Кроме того, плавучая АЭС может быть целью террористических атак», – заявила Тошико Танака, пережившая бомбардировку Хиросимы в возрасте шести лет. «Идея поставить реактор на судно с первого взгляда вызывает восхищение человеческой изобретательностью, но в пролив, из-за опасности загрязнения морей», – подчеркнул Секиро Мисе. Во время бомбардировки Нагасаки ему было десять лет.

Участники тура на «Корабле мира» останавливаются в портовых городах и рассказывают об угрозах атомного оружия и атомной энергетики. В Санкт-Петербурге хибакус призвали не верить в мифы о безопасности атомной энергетики. Они считают атомную энергетику неприемлемой еще и потому, что из отработанного ядерного топлива можно сделать ядерное оружие. «Для нас очень важно, что опасные и сомнительные проекты, в том числе строительство плавучей АЭС, вызывают опасения как в Петербурге, так и в других частях


II ФОРУМ
СОЦИАЛЬНЫХ ИННОВАЦИЙ
РЕГИОНОВ
8-9 июня 2017 | КРАСНОГОРСК

Популярное

- 1 Любимые книги неклассического сектора
- 2 Семинар Фонда президентских грантов для НКО по заполнению заявок на участие в конкурсе-2017 (ВКСО)
- 3 Стартовал первый в 2017 году конкурс президентских грантов для НКО
- 4 Объявлены даты конкурсов президентских грантов для НКО в 2017 году
- 5 Бизнесмен преодолел 1130 километров в поддержку подопечных Русфонда

Подписка на рассылку
Самые свежие новости и наши лучшие материалы в вашем почтовом ящике

[Подпишитесь по email](#)

Анонсы

Благотворительная ярмарка мастеров «Ярмарка добрых дел»

6) 2017年6月2日掲載(フィンランド)

ILTALEHTI Sää Kuopio ylin alin BU
20° 7° PEI

Etusivu Uutiset Urheilu Viihde Sää IL-TV Terveys Rakkaus & seksi Ilona Työ
Kotimaa Ulkomaat Työelämä Talous Poliitiikka Sää Pääkirjoitus
Kuntavaalit Ylioppilaat

JUURI NYT Pikkutyttöä lyhyt tukka - koko joukkue diskattiin

ULKOMAAT

Trumpin sävy
lientyi
puhelussa
Saudi-
Arabian
kuninkaalle -
vaatii nyt
yhtenäisyyttä
Persianlahdella
Qatar-
kiistassa

Turkin
Erdogan
arvostelee
Qatarin
kohtelua

WaPo: Trump
pyysi
tiedustelujoht
taivuttelemaa
Comey
luopumaan
Venäjä-
tutkinnasta

Nenättömänä
syntynyt 2-
vuotias
ihmelapsi
kuoli - pojan

**Mise, Tanaka ja Tsuchida
selvisivät hengissä
ydinpommista - "kärsimys
jatkuu 72 vuoden
jälkeenkin"**

Perjantai 2.6.2017 klo 07.24

Hiroshiman ja Nagasakin pommitukset
varjostavat yhä eloonjääneitä.

† Toinen maailmansodan ydinpommien
selviytyjät kiertävät maailmaa
kampanjoiden ydinasekiellon puolesta.

† Näiden hibakusha-nimellä Japanissa
tunnettujen ihmisten keski-ikä on jo yli 80
vuotta.

† Jokaisen tarina on erilainen, mutta viesti
sama: ydinaseet eivät tuo rauhaa, vain
tuhoa.

ÄÄNET

**Seiichihiro Mise oli 10-vuotias kun
Nagasakissa räjähti 9. elokuuta 1945.**

7) 2017年6月29日掲載(米国)



Hibakusha appeal at the United Nations for a strong treaty to ban nuclear weapons

29.06.2017 - Pressenza New York (<https://www.pressenza.com/author/pressenza-new-york/>)



Delegation of Hibakusha pose with representatives of Amplify, the network of youth leaders working for nuclear abolition.

Historic negotiations for "a legally binding instrument to prohibit nuclear weapons, leading towards their total elimination" are now taking place at the United Nations in New York. Civil society representatives from around the world are gathered there to urge all nations to work in good faith to achieve the strongest, most effective treaty possible.

Amongst the civil society present in New York include many Hibakusha, survivors of the atomic bombings of Hiroshima and Nagasaki. As the only people who have ever experienced the devastation of nuclear war, the voices of the Hibakusha carry a heavier weight than most on the topic of global nuclear proliferation. They are mentioned directly in the preamble of the revised treaty draft released earlier this week, which states that participating countries are "mindful of the unacceptable suffering of and harm caused to the victims of the use of nuclear weapons (Hibakusha) as well as of those affected by the testing of nuclear weapons."

On June 16, representatives of the Hibakusha personally handed over a total of 2,963,889 signatures from the appeal to the president of the UN Conference, Costa Rican Ambassador Elayne Whyte.

The following day, a delegation of Hibakusha currently travelling around the world onboard Peace Boat flew to New York to attend the ban treaty negotiations, where they spoke at various events and reminded attendees of the significance and urgency of nuclear weapons abolition.

"The voices of the hibakusha and survivors of nuclear testing around the world have been absolutely crucial in this process ... that is so powerful it makes the case as to why these weapons must be banned," said Tilman Ruff, co-president of International Physicians for the Prevention of Nuclear War, as reported by Kyodo News.

It is expected that the treaty will be concluded in July 7.

8) 2017年6月23日掲載(ベネズエラ)



FALTAN 07 DÍAS

[INICIO](#)
[NACIONALES](#)
[INTERNACIONALES](#)
[ECONOMÍA](#)
[DEPORTES](#)
[CULTURA](#)
[PROGRAMAS](#)
[MULTIMEDIA](#)
[OPINIÓN](#)

AHORA

Barco de la Paz arriba al Puerto de La Guaira

Publicado el 23/Jun 2017 a las: 3:27 pm Por: orodríguez



Foto Bolipueritos

La Guaira, 23 de junio de 2017.- Con actividades culturales y musicales, fueron recibidos más de mil turistas japoneses que arribaron a bordo del Barco de la Paz al Puerto de La Guaira.

Foto Bolipueritos

Este es el viaje número 94 que realiza la embarcación, cuyo objetivo principal es llevar al mundo un mensaje de paz y pedir la abolición de las armas nucleares, informa la Bolivariana de Puertos (Bolipueritos) en nota de prensa.

Como parte de su itinerario en el puerto varguense, una delegación de supervivientes de las bombas de Hiroshima y Nagasaki ofreció una conferencia sobre sus testimonios de vida, como parte del décimo "Viaje Global por un mundo libre de armas nucleares: Proyecto Hibakusha de Peace Boat".

Lluvias intermitente este domingo en el oriente y en la región central del país

EN FOTOS ||
#MaduroEnLaHojilla

Jornada del Carnet de la Patria se extenderá hasta el próximo sábado 29 de julio

¡IMPERDIBLE! La Planta Insolente se estrena este domingo

GENTE CONSTITUYENTE| La ANC es la herramienta para unir a todos los venezolanos

Jornada del Carnet de la Patria se extenderá hasta el próximo sábado 29 de julio

¡IMPERDIBLE! La Planta Insolente se estrena este domingo

Pdte. Maduro a dirigentes y grupos fascistas: Desmárquense a tiempo de la violencia. Comisión Verdad y Justicia ANC será implacable

Estamos preparados para que Venezuela supere cualquier escenario ante amenazas de Estados Unidos, indicó Jefe de Estado

Presidente Maduro con Mario Silva en programa especial de La Hojilla: Avanza la Constituyente

9) 2017年6月28日掲載(ニカラグア)


LUNES A VIERNES 12:00MD/5:00PM

INTUR recibe con cariño a tripulantes del Barco de La Paz

Publicado: Miércoles, 28 de Junio 2017 a las 9:02 pm; Categoría: Sociales; Etiquetas: Lo que se vive



MISE SEECHIRO
SOBREVIVIENTE BOMBA ATÓMICA NAGASAKI

Ver en Youtube

Programación

AHORA EN PANTALLA:

- 08:00 - ADVENTURE TIME
- WITH FINN & JAKE
- A CONTINUACION:
- 08:30 - CINE INFANTIL
- 10:00 - CINE FAMILIAR
- 12:00 - EL HUMOR DE HECTOR SUAREZ

[VER PROGRAMACION COMPLETA >](#)

@VivaNicaragua13

Viva Nicar...

@VivaNicarao...

#QueVivanLosEstu...

Leoneses depositan ofrenda floral para los universitarios caídos en la Masacre.

Tras llegar al suelo nicaragüense los tripulantes del Barco de La Paz fueron recibidos con una revista cultural en Puerto Corinto del